

LB 会報



2013 年1月 No.10

一般社団法人東大 LB 会機関紙

編集責任者 樋口周嘉、手島直幸、吉澤伸明、赤木升

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学運動会ア式蹴球部内

【目次】

1. 現役の活動状況.....	2
① 2012 シーズンの結果.....	2
② 2013 シーズンについて.....	2
③ LB による現役支援.....	2
④ 今年を振り返ってのコメント.....	3
2. LB 会の活動状況.....	4
① 事務局からの報告.....	4
② 年代別のチームの活動状況.....	8
③ 御殿下シニアフットボールクラブの活動状況.....	10
3. 現役からの情報発信.....	13
① ア式蹴球部が掲げる理想とクラブ運営を行う上での目標.....	13
② 活動の内容.....	14
公式グッズの紹介.....	16



<ホーム用ユニフォーム>



<アウェイ用ユニフォーム>

1. 現役の活動状況

① 2012 シーズンの結果

【東京都大学リーグ 1 部 7 位 次年度は東京都 1 部リーグ】

2012 シーズンの公式戦の結果は下記の通りでした。結果、来シーズンの東京都 1 部リーグ残留が決まりました。

- ◆東京都総理大臣杯予選 東京都3位
→都県選に進出も明海大学に1-3で敗戦し、関東予選出場は逃す
- ◆春季リーグ 2勝1分6負 (9位/10 チーム中)
- ◆京都大学定期戦 1軍戦 1-0で勝利
(3軍戦まで含めたトータルでも2-1で勝利)
- ◆秋季リーグ 3勝3敗3分 (7位/10 チーム中)

② 2013 シーズンについて

【2013 年から東京都リーグが 2 季制に移行】

2013 年からは、東京都リーグが 2 季制となります。これまでの秋に各チームと 1 試合対戦する形ではなく、春、秋の結果を合計した全 18 試合 (10 チームのリーグ戦/春・秋のそれぞれで各チームと 1 度対戦) の結果で昇格・降格が決定します。なお、関東大会の結果を受け、来期の東京都大学サッカーリーグ 1 部は、日本大、亜細亜大、明治学院大、立教大、立正大、國學院大、山梨学院大、東大、東京経済大、帝京大の 10 校となりました。また、新シーズンの体制は下記の通りです。

主将	長尾林太郎 (暁星高校 文学部行動文化学科社会学専修課程 3 年)
副将	片山元 (東大寺学園 文学部言語文化学科フランス語フランス文学専修課程 3 年) 賀茂駿介 (暁星高校 農学部国際開発農学専修 3 年)
主務	山口裕吾 (開成高校 工学部機械工学科 3 年)
副務	末吉弘昂 (滝高校 教養学部文科 2 類 2 年)、三浦章太 (西高校 教養学部文科 3 類 2 年)

③ LB による現役支援

【西野氏の寄付によるユニフォームのリニューアル】

昭和 33 年卒の西野氏からユニフォームの更新のために頂いた 100 万円の寄付金を活用し、今年の秋季リーグから公式戦ユニフォームが新しくなりました (1 ページ目写真参照)。今まで 5 年間、使用していたミズノのユニフォームに変え、新たにアディダスのユニフォームとなりました。

【LB 会として部室の改修とグラウンドへのビデオカメラの設置を支援】

現役からの要望を受け、LB 会として部室整備 (棚等の備品購入、網戸設置、戸の整備…計 467 千円) 及びグラウンドに試合撮影用の遠隔操作カメラ設置 (893 千円) などの支援を行いました。

④ 今年を振り返ってのコメント

監督代行 利重孝夫

秋季リーグ戦では東都1部7位と、決して満足のいく戦績ではなかった今年の東大ですが、かつて何となく目指していた関東昇格という目標をより現実的なものとして捉え、継続的な戦力強化、学生による組織運営力アップ、OBとの連携、サポート体制の整備など、昇格するだけに留まらず、関東に定着することを視野に入れた、多方面での積み上げを行うことが出来た、大変有意義な1年となりました。

特に、戦力面においては、有名高校、Jクラブユース出身メンバーで固めた強豪大学に対し、真っ向からがっぷり四つに組んで、ゲームを支配することで勝負に挑むことの出来る魅力的なチーム作りが進んでおり、目前の試合の勝敗だけでなく、クラブとしての地力を上げていくことにも拘って、日々の練習から取り組んでまいりました。

来季も、今年以上に厳しい戦いとなることは必至ですが、東大らしさを前面に押し出して関東昇格を賭けて戦っていく所存ですので、今後とも変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

監督 胡内 健一

秋季リーグでは7位となり、東京都リーグ1部残留という結果に終わりました。しかしながら、総理大臣杯関東代表決定戦 予備予選への出場、Iリーグへの参戦など、ア式蹴球部の歴史の新たな1ページを刻む年となりました。新チームはすでに始動していますが、林コーチの元で深めたア式のサッカー、高校生や文京区との交流活動を継承し、強さと魅力を兼ね備えた集団として成長していくために日々精進しています。

コーチ 林健太郎

ご声援、ご支援ありがとうございました。リーグ戦の結果は不本意なものでしたが、選手・スタッフ共に精一杯戦ったつもりです。来シーズンはチームの目標である関東昇格に向かって、努力し続けていきますので、引き続きご指導、ご声援のほどよろしくお願いします。

主将 古賀久善

今年は引き続き健太郎さんの指導の元、昨年あと一歩で届かなかった「関東昇格」を全員がより具体的に意識してシーズンインに臨みました。昨年のテーマ「切り替え」に加えて「90分間走って勝ちきる」ことを目指し、走りこみや週末の試合時間を増やし、大臣杯都県選大会進出という結果は残しましたが、明海大に完敗し再び課題を突き付けられました。更に今年は新入生が35名入部し、100人規模の組織となり、「ア式」全体をまとめることにはとても苦労しました。その状況の中で、ABCの3チーム練習やIリーグ参加など新しい事に挑戦し、チーム全体のレベルアップを図りました。秋には接戦で勝ちきれない試合が多く7位という成績に終わり悔しい思いでいっぱいですが、勝てない時期にも自分たちのサッカーやチームの雰囲気は崩れることなく良くなっていった事には満足しています。また、1年間通して色々な場面でOBの皆さまの支援・応援のお陰でサッカーが出来ているのだと感じました。この場を借りて感謝申し上げます

2. LB 会の活動状況

① 事務局からの報告

【御殿下ルネサンスプロジェクト決着】

対外試合の開催会場でありながらもシャワーも更衣室も利用できないという御殿下の問題を解消すべく、LB 会では御殿下グラウンドへのクラブハウス設置に向け、御殿下ルネサンスプロジェクト (GRP) として大学側との交渉を続けておりました。この度、GRP が決着をみましたのでご報告いたします。

2011 年 4 月発行の LB 会報 7 号でお伝えした通り、GRP の第一期プロジェクトとして、最終的に御殿下グラウンドの時計台のコーナー脇に脱衣所、シャワー室を備えた建物（3 階建て）を建設する案を提案しました。しかし、大学側での建築確認未申請建物の問題、御殿下地下駐車場構想などがあり、結果として、最終的に学内で承認を得ることができませんでした（2011, 12 発行の LB 会報 8 に詳報あり）。そのため、御殿下記念館の改築や利用方法の柔軟化について議論を行ってきましたが、下記の通りとすることとなりました。

- ・今後、御殿下 G でリーグ戦や LB の行事があるときには、研修室を更衣室として、無料で貸し出す。但し、鍵の管理や清掃等はサッカー部、LB 会として責任をもってやる事。
- ・記念館のシャワー室も、必要に応じて使えるようにする。但し 2 週間前に申込が必要。また、費用は 300 円/人、7800 円/回。

【部室の老朽化に伴い、建替に向けた検討を開始】

農学部横の部室は平成元年に施工完了し、すでに築 24 年となります。近年の老朽化の進展は如実であり、2012 年 10 月の豪雨では部室 2 階に雨漏りが発生しました。

当面は屋根の補修に向けて動いてはおりますが、各所に損傷が発生していること、また、現在の部員数（約 100 名）では手狭なことなどを踏まえると、今後 1～2 年以内に建て替えは必須であり、LB 会と現役で相談しながら検討を進めていく予定です。

なお、現在の部室の建設費用は 2400 万円であり、当時は LB 会が 1000 万円、大学が 1400 万円負担しました。建て替えの折には、前回同様 LB 会員の皆様にご協力をお願いすることとなるかは思いますが、ご協力何卒よろしくお願いいたします。

【平成 24 年度 LB 会費未納入の方へのお願い】

2013 年 1 月 4 日現在で、311 人で 401, 6 万円納入頂きました。納入者の詳細については次ページをご覧ください。現役への十分な支援とその他の LB 会の活動の実施を考えた時、財政基盤は未だ脆弱なものと言わざるを得ません。改めて、これまで会費をお納め頂いてない方に会費の納入をお願いします

なお、現役部員に協力してもらい、未納の LB 会員に納入の呼びかけをしています。この呼びかけに応じて納入して頂いた方々の納入実績は、2013 年 1 月 4 日入金分まで掲載しています。

会費の金額は、1 口 3 千円を 4 口以上でお願いします。

下記の銀行の振込先口座へ振り込みをしてください。

【振込先口座】 口座名義人はいずれも“東大 LB 会”

① みずほ銀行日本橋支店 (038) (普通預金) 番号 : 2213920

② 三菱東京 U F J 銀行日本橋支店 (020) (普通預金) 番号 : 5125311

【会費担当者】 吉澤 伸明 (S50 年卒) 携帯 : 090-7395-9559 メール : aya8423@opal.dti.ne.jp

納入者リスト

下記の方々からLB会費を納入頂きました。ご協力ありがとうございます。

卒年	氏名	金額 (千円)	卒年	氏名	金額 (千円)	卒年	氏名	金額 (千円)	卒年	氏名	金額 (千円)	卒年	氏名	金額 (千円)
S14	田村 三郎	12	S40	間宮 誠一郎	12	S50	大高 松男	12	S58	和田 康太郎	15	H15	中島 大智	15
S18	渡辺 隆二	12	S41	廣瀬 英雄	12	S50	尾崎 哲男	21	S59	柴田 周	12	H15	米山 雅也	12
S23	高崎 達也	15	S41	河島 洋征	18	S50	兵頭 圭介	30	S59	赤城 庸人	15	H15	胡内 健一	12
S25	丸山 智信	15	S41	香山 晋	15	S50	山中 馨	12	S59	萩原 豊	6	H15	新山 通世	12
S27	秋山 榮	24	S41	武田 勝年	15	S50	山辺 福二郎	12	S60	伊藤 洋	12	H15	吉田 寛	12
S27	石川 晴樹	12	S41	中岡 智信	3	S50	吉澤 伸明	30	S60	小野 平	12	H16	河島 清貴	12
S27	菊井 維正	12	S41	野村 晋作	15	S50	松下 兼幸	12	S60	久井 大樹	24	H16	小松 幸広	12
S27	三輪 嘉晟	12	S41	藤井 雅治	15	S51	池森 俊文	18	S61	小泉 泰郎	24	H16	清 雄一	15
S27	吉富 裕	12	S41	水澤 雅武	12	S51	植村 祐幸	12	S62	佐藤 哲治	15	H16	高橋 康一	12
S28	坪田 亜規良	12	S41	渡辺 翼	12	S51	小野田 莊平	12	S62	鈴木 修二	12	H16	鷺川 俊	15
S28	中原 壯六	12	S42	坂井 忠昭	15	S51	影本 浩	12	S63	金子 健紀	15	H16	渡部 雅史	12
S29	金井 弘夫	12	S42	鳥原 光憲	15	S51	田中 靖	12	S63	久保田 健	12	H16	渡辺 勇樹	12
S29	川辺 正行	12	S42	三浦 重	12	S51	谷本 篤信	12	S63	鹿園 直毅	12	H17	河村 俊太郎	3
S30	鈴木 美暢	12	S42	見末 紘一	12	S51	堀井 茂	18	S63	末永 孝彦	15	H17	坂本 優	12
S30	深見 浩一	12	S42	吉田 茂男	12	S51	堀園 慎一郎	12	S63	末永 浩	12	H17	瀬谷 洋平	3
S30	藤本 鉄也	12	S43	小西 敏夫	12	S51	南谷 尚志	12	S63	利重 孝夫	15	H17	辻 正太	15
S31	浅見 俊雄	21	S43	諏訪 勝久	12	S51	宮武 明	12	S63	山本 武志	12	H17	一言 正之	15
S31	岡野 俊一郎	15	S43	中井 省	12	S52	森井 太一	12	H1	大久保 将之	12	H17	牧 尚史	15
S31	片山 義朗	12	S43	小川 恭二	12	S52	池田 吉彦	15	H2	金元 輝	12	H18	朝倉 昶	12
S31	山野 一郎	12	S43	小林 将志	15	S52	岩田 武史	15	H2	熊岡 尚	12	H18	岩田 真吾	12
S31	山本 修	12	S43	中尾 捷	12	S52	加藤 重和	15	H2	住谷 安史	12	H18	上土居 悠	15
S32	片原 清	12	S44	石田 祐幸	12	S52	藤原 真一	15	H2	橋本 昌司	24	H18	梶原 康嗣	3
S32	倉田 日出男	12	S44	大町 達夫	12	S52	三島 茂	12	H2	早野 裕	20	H18	北村 篤司	3
S32	嶋田 武夫	12	S44	加納 研之助	12	S53	青山 研一郎	12	H3	小島 恭	12	H18	寺田 宏幸	12
S32	津田 義久	12	S44	北川 薫	12	S53	阿部 吉弘	12	H3	中村 聡	12	H18	宮副 照久	3
S32	原 靖二郎	12	S44	杉山 健一	12	S53	井田 淳	12	H3	山田 祈一	36	H18	山崎 浩平	12
S33	西野 宏	18	S44	小林 喜一	12	S53	加川 実	12	H3	荒巻 俊也	12	H19	赤木 升	12
S33	浜口 幸久	12	S44	永峰 富一	12	S53	潜道 隆	12	H3	白枝 哲次	12	H19	石黒 雄一	12
S34	高山 武彦	12	S44	鍋島 厚	12	S53	本庄 孝志	12	H3	平岡 洋	12	H19	金子 泰拓	12
S34	畔柳 敏雄	15	S44	馬郡 貴司	12	S53	牧野 尚雄	12	H3	山口 吾和	12	H19	河村 卓修	12
S35	伊野部 元彦	12	S44	松岡 誠也	12	S53	森 俊勝	12	H4	天野 賢一	12	H19	斎木 拓郎	3
S35	小山 富士夫	30	S44	八林秀一(逝去)	12	S53	山崎 隆志	12	H4	早間 央	9	H19	西村 直紀	3
S35	長濱 毅	10	S44	藪内 俊和	15	S54	上村 司	12	H4	蟻川 明男	12	H20	青木 宏	12
S35	福田 泰二	12	S45	小菅 恭彦	12	S54	岸戸 健	15	H4	岡垣 啓司	12	H20	明石 篤	12
S36	足立 格一郎	12	S45	新倉 正和	10	S54	広瀬 一郎	12	H5	大西 啓介	20	H20	碓 知也	12
S36	野澤 量一郎	12	S45	小柳 望	12	S54	宮 恭久	12	H6	甲斐 正彦	12	H20	池田 暁彦	3
S36	松村 保	12	S45	佐藤 吉見	15	S54	吉江 建一	12	H7	高橋 康之	12	H20	伊藤 貴寛	12
S37	名越 英夫	20	S45	武田 厚	21	S54	吉野 元章	15	H7	吉川 健司	12	H20	菊月 達也	3
S38	梅村 洋	21	S45	田代 康之	15	S55	山本 洋一	12	H7	分部 隆夫	20	H20	木野本 朋哉	12
S38	高橋 一修	15	S45	榊井 成夫	12	S55	青山 市三	12	H8	神田 毅	12	H20	杉山 翔一	3
S38	中村 紀雄	12	S45	吉崎 英雄	15	S55	飯島 正	12	H8	鈴木 智典	12	H20	畑中 計政	6
S38	門馬 建	9	S45	渡辺 宏	12	S55	井田 陽彦	12	H8	古川 弘之	15	H20	宮本 雅之	12
S39	安達 二郎	15	S46	小原 正	12	S55	大塚 伸宏	12	H8	松田 直樹	12	H21	大沢 拓巳	12
S39	長田 綏男	24	S46	鹿島 文行	12	S55	柿木 真澄	12	H10	矢野 将文	30	H21	林 敏	12
S39	小川 肇	12	S46	金丸 仁	12	S55	佐藤 敦郎	12	H10	萩原 隆之	30	H21	千布 勇氣	12
S39	熊沢 英男	15	S46	古村 一郎	12	S55	湊 和則	12	H10	増田 直毅	12	H21	中野 誠	12
S39	後藤 雅治	15	S46	櫻井 英人	12	S55	宮崎 洋	12	H11	大谷 聡	12	H21	中島 悠司	12
S39	中島 宏介	12	S46	清水 俊行	15	S56	牛窪 健一	12	H11	樋渡 類	12	H21	船本 洋平	15
S39	長田 綏男	12	S47	戸井 正明	12	S56	田中 聡	12	H11	宮川 尚久	15	H21	那須 雄介	6
S39	八田 洋	12	S47	赤松 秀樹	12	S56	福田 信夫	24	H12	下田 修平	24	H21	西 健吾	3
S39	森 紘一	12	S47	大日向 明	12	S57	赤星 克彦	12	H12	伊地知 亮太	3	H21	水澤 仁雅	12
S39	山浦 紘一	22	S47	金武 貢	12	S57	飯島 敦	12	H13	伊藤 陽介	12	H22	藤安 雄治	3
S39	山田 隆哉	12	S47	手島 直幸	15	S57	坂田 中	12	H13	我部 有	12	H22	熱海 修平	12
S39	吉田 慶次	12	S47	宮路 康利	18	S57	志水 利彰	12	H13	小川 和聖	12	H22	後藤 遷也	3
S40	石田 金次郎	15	S49	内田 純司	15	S57	福沢 伸哉	12	H13	広谷 昌俊	12	H22	深田 啓介	3
S40	石光 豊	12	S49	岡田 滋行	12	S57	川村 公一	12	H13	本多 祐樹	12	H22	村上 達哉	12
S40	太田 直幹	12	S49	笠原 昌行	15	S58	中谷 知弘	12	H14	茂木 嵩史	12	H22	吉田 航太郎	3
S40	加藤 義章	12	S49	佐々木 順孝	12	S58	安 秀和	12	H14	沖野 泰之	3	H23	大内 三千生	12
S40	川瀬 隆弘	12	S49	田名 真一	12	S58	植田 浩	12	H14	柿木 充	18	H23	松谷 康平	3
S40	畔柳 信雄	12	S49	西澤 良徳	12	S58	熊倉 政宣	12	H14	光井 逸平	12			
S40	小林 邦彦	12	S49	三田 四郎	12	S58	斎川 路之	12	H14	山中 直岐	6			
S40	樋口 周嘉	30	S50	天野 裕	12	S58	清水 靖裕	12	H15	都島 豪志	6			
S40	深澤 重幸	12	S50	遠藤 譲	12	S58	橋本 晴充	15	H15	小野 高志	12			

※納入者は2013年1月4日時点

【岡野俊一郎氏文化功労者の顕彰を受ける】

東大LB会相談役、日本サッカー協会最高顧問の岡野俊一郎さん(昭和31年東大ア式蹴球部卒)が、2012年10月30日文化功労者に選ばれました。日本において、文化の向上発展に関し特に功績顕著な者とされる文化功労者に選ばれたことはサッカー人としてうれしいニュースです。岡野さんは、「名誉な知らせを受け、感激いたしております。ご指導頂いた各界の諸先輩のおかげです。11月5日の顕彰式と宮中でのお茶会には「出席させて頂き、一生の思い出に残る1日でした」とのコメントをされています。

11月7日に日本サッカー協会は、岡野さんが病気療養のため当面休養すると発表しました。功労賞の内示を頂いた直後に肺に悪性腫瘍が見つかり、現在は東京都内の病院に入院しているということです。浅見理事長が岡野さんの秘書役と直接お話ししたところ、入院していて検査を受けながら抗がん剤の治療をされているようです。入院先はどなたにも教えていないとのことでした。ただ必要のある時は外出もされているようです。

治療に専念されて、また御殿下にも顔を見せていただけるようになることをお祈りします。

岡野俊一郎(おかのしゅんいちろう)

東大出身のサッカー日本代表選手として日本代表国際Aマッチ2試合出場。指導者としては1968年メキシコ五輪に代表コーチで臨み、銅メダルに貢献。日本協会で役職を歴任し、1998年には会長に就任。2002年ワールドカップ(W杯)日韓大会成功に貢献。日本オリンピック委員会(JOC)専務理事や国際オリンピック委員会(IOC)委員を務め1998年長野冬季五輪招致などに尽力。スポーツに対する幅広い見識と指導力、国際感覚で国、政府機関とのパイプ役になった。(時事、朝日、産経、毎日、日経などの記事から)

(文責：手島直幸)

【訃報】

下記の方々の訃報が届きました。ご冥福をお祈りいたします。

また、須賀敏孝氏と荒川吉彦氏への追悼文を頂きましたので、掲載致します

氏名	卒業年次	ご逝去日
杉浦裕 氏	昭和51年卒	4月14日
須賀敏孝 氏 (前LB会理事長)	昭和19年卒	8月29日
八林秀一 氏	昭和44年卒	11月5日
荒川吉彦 氏	昭和50年卒	11月16日
藤本鉄也 氏	昭和30年卒	12月19日

「有難うございました須賀さん」

梅村洋

須賀さん、長い間お世話になり有難うございました。

思えば初めてご挨拶したのが須賀さんが東大ア式蹴球部の監督に就任され、私は一浪後入部した昭和34年の春でした。以来50有余年いろいろなことをご指導頂きました。

蹴球部在籍の4年間、練習・試合の殆んど全てにいらして、時にはサークルキックに参加され現役をしのぐキックに私共は驚きました。

私が主将になり数ヶ月過ぎた頃、練習がだらけたと思い、運動場を後にし上野のお宅に伺い、主将辞退の相談に伺った折、又入替戦の選手起用に先輩と意見が異なった折、自分の方針でやれと支持頂いたこと有難うございました。選手の自主性を重んじ、作戦・技術などのことは一切おっしゃらず精神的支柱としてご指導下さいました。

監督ご在任中2度入替戦に蹴球部は挑みましたが残念ながら2度共法政大に惜敗しました。

昭和38年の春に蹴球部卒業生で社会人としてボールを蹴る機会の無いOBを中心に東大以外の人も参加出来る「御殿下クラブ」を作り、須賀さんに監督・選手・スポンサーとして参加頂き、東京クラブリーグに参加し活動、数年後関東リーグに昇格、1年間ここで、その後の日本リーグの母体となるチームと戦いました。選手が足りない折、須賀さんに出て頂き若い者相手に奮戦、頭を打ち怪我をされながらプレーを続けてもらいました。遠征の折には、土地の旨い食物をチーム全員がご馳走になったこと楽しい思い出です。

加齢によりサッカーが出来なくなってきたからはボールを小さくして御殿下ゴルフクラブに化けて年4、5回当時の仲間とコンペを行い今日まで続けています。須賀さんも一昨年迄はご参加していました。

須賀さんは監督ご退任後も現役の試合の応援を続けられ、OBの試合にも来て頂きました。又、初代LB会の会長にもご就任願ひ現役支援組織の中心になって頂きました。

須賀さん 長い間有難うございました。

※東大基金のア式蹴球部支援基金に故須賀前理事長のご遺族から故人のご遺志によるご寄附として200万円をお振込戴いたとの連絡がありました。基金に総額200万円、そのうちア式蹴球部支援基金には85%の170万円ということです。(LB会事務局)

「荒川吉彦君（S50卒）を偲ぶ」

S50年卒同期（文責・吉澤）

思い出すのは、ヒゲでロン毛の荒川が髪をなびかせて、中盤をドリブルする姿だ。

浦和高校を卒業して（浅見さんの後輩）すぐにア式に入部した。記録を見ると2年生のときはFWとして京大戦、リーグ戦に出場。3年、4年では中盤の選手として活躍した。

中根さんの写真集を見ると、あの懐かしい荒川がいる。皆から「アラカニさん」と呼ばれ、後輩の多田に肩車されている笑顔が印象的だ。

外務省に入って、世界各地を仕事で渡り歩き、最後はリオデジャネイロの総領事であった彼と、最近、御殿下グランドで会った。話はやはり「これから同期で楽しいサッカーをやりたいね・・・」だった。

90年史に書いた彼らしい言葉を最後に引用して、早く逝った荒川に同期の祈りを捧げる。

「そんな私がコンスタントに持続しているのは、妻への愛とサッカーへの片思いであろうか。前者をテーマに本の一冊もすぐ書けるが、今回はサッカーについての随想を書けとの由」(90年史「ライトブルーの青春譜」ページ76より)

② 年代別のチームの活動状況

些か古い話になりますが1999年5月に、以下の様な考え方で「LB50」というチームを立ち上げようという動きが起きました。

『LBメンバーの内50歳代の者でチームを組織する。

第一義的には自分達でサッカーを楽しむ集まりとするが、60歳以上の超OBチームへの継続的選手供給源となると共に、超OBが参加する大会等に際して選手の不足を補う役目も果たす(57歳以上参加可の大会もあり)。又、チームのまとまりを現役支援の場面で活かす。

なお、年に2回行われる、慶応、早稲田との超OB戦は、発足時55歳以上(当時の大企業の定年)であったが、現在は早慶は50代前半も参加しており、実態として60歳以上に限られている東大と差がついてしまっている。早慶側は、戦前の日本のサッカーを支えた3大学の伝統を引き継いだOBの集まりを、リーグ戦での対戦の無い世代でも引き継いで行きたいとの思いが強く、東大の参加メンバーの年齢の引き下げ、そしてその更に下への継承が求められている。』

その後は、上記の早慶との3大学超OB戦をメインとして他大学のOBチームや地域のクラブチームとの交流戦を重ねると共に、一時参加が途絶えていた刈谷での60歳以上の大会「スーパーエイジサッカーin刈谷」に参加し、更には古河で開催される「古河市マスターズサッカー大会」の50歳代、60歳代のエンジョイ部門に参加する様になり、チームも「LB60」或いは「LB70」と発展しています。2007年の京大戦の時に新しくした淡青のユニフォームの背番号は既に140番を超えています。

それから13年目となった2012年には、新たな動きとして、LB60とLB70が共に東京都サッカー協会が主催するリーグ戦に参戦することになりました。60歳代はチーム名称を「御殿下シニアフットボールクラブ」(GSFC)としてクラウンリーグに参加しました(戦績等は次項で詳細に)。70歳代は「東大LB70」の名前でSFLリーグに参加しています。(SFLはSoccer for Lifeの短縮形です。)

この流れの中で、2006年から「藤枝フットボールクラブ」(藤枝FC)との交流が始まりました。直接のきっかけは、LB会のメンバーが藤枝市民病院に勤務しており、その人を通してということなのですが、栄光の東大ア式蹴球部のこれまでのところの最後の輝きであった昭和33年夏に藤枝市で開催された全日本サッカー選手権での現役と若手OBの合同チーム「東大LB」の3位入賞時に、3位決定戦で勝利を収めた相手「志太クラブ」の流れを汲むのが藤枝FCであるという因縁もあるのです。

この交流は、初めはLBが11月頃に藤枝に遠征するという形だったのですが、2009年のホームカミングデー(HCD)の試合に藤枝FCを招待したのをきっかけに、ホームアンドアウェイの形となり、2012年は10月20日のHCDと11月17日に対戦しました。11月17日の遠征時には第7回交流を記念して藤枝市長、藤枝サッカー協会長更には市内及び近隣在住の元全日本代表メキシコ五輪銅メダル組の杉山隆一氏、富沢清司氏等のご出席を得て歓迎式典が執り行われました。

2012年の特別な動きとして、福島応援のための福島遠征があります。これは、震災と原発事故からの復興に頑張っている福島県のシニアフットボーラーをサッカーの試合を通じて応援したいとの思いから企画したもので、6月28日に17名で遠征しました。福島シニアは福島県から集まった人達が南北の2チームに分かれてそれぞれ東大LBシニアと対戦しました。試合の後に簡単な懇親の席を設けました。また趣旨に賛同頂いた東京在住の福島大OBのFFC84のメンバー数名も東大LB側で参加されました。

次ページの表は2012年のLB50～LB70の試合の実施状況(GSFC関係を除く)をまとめたものです。

これらの試合に際しては参加者から一定額(1,000円～2,000円)を徴収し、必要経費を支払った残金を現役支援目的でLB会への寄付としています。2012年の寄付金総額は約61万円でした。

2012年のLB会シニアメンバーの試合の実績(GSFC 関係を除く)

	月日	行事名	場所	対戦相手	参集人数
1	1月8日	蹴り初め	農学部	シラク、京大OB	45人
2	1月13日	関西LB試合	Jグリーン堺	男組(京大OB)	8人
3	1月15日	招待	フクアリ	千葉大OB	24人
4	1月28日	親善	レッズランド	筑波大付属OB	17人
5	2月11日	練習試合	検見川	御殿下SFC、FCマジョール	21人
6	2月19日	親善	夢の島競技場	年中クラブ、東京男組	16人
7	3月4日	7大学前哨戦	検見川	京大OB	21人
8	3月10日	7大学OB大会	市原スポレク	北・東北・名・京・阪・九大OB	32人
9	3月24日	親善	農学部	東大ダックス	24人
10	4月15日	親善	農学部	埼玉O-60選抜、東京シニアC	19人
11	4月21日	東京都シニア	駒沢補助グラウンド	八王子60、杉並リベルタ	11人
12	4月28日	親善	農学部	福島大OB(FFC84)	18人
13	4月30日	東京都シニア	東京ガス武蔵野苑	八王子65、桐窓クラブ	15人
14	5月5日	親善	秋津サッカー場	習志野シニア	30人
15	5月13日	練習会	農学部(ナイター)	ナシ	13人
16	5月19日	古河市マスターズ	古河リバーサイド	O-50 2試合、O-60 1試合	O-50 9人
17	5月20日	サッカー大会		O-50、O-60各2試合	O-60 16人
18	5月27日	練習会	農学部(ナイター)	ナシ	18人
19	6月28日	福島遠征	福島空港近くのG	福島シニア	17人
20	6月30日	練習会	小石川運動場(早朝)	ナシ	7人
21	7月7日	練習会	小石川運動場(早朝)	ナシ	8人
22	7月21日	京大戦前哨戦	三菱養和巣鴨	京大OB	30人
23	7月22日	京大戦前哨戦	農学部	京大OB	27人
24	7月29日	京大戦	京大農学部	京大OB	19人
25	8月12日	親善	江戸川陸上競技場	墨東50他	18人
26	8月18日	親善	江戸川陸上競技場	墨東60	18人
27	8月26日	親善	農学部	栄光学園OB	21人
28	9月8日	7大学前哨戦	検見川	北大、東北大OB	13人
29	9月8日	スーパーエイジ	刈谷市総合グラウンド	O-60、O-70(京大OBと合同)各1試合	O-60 12人
30	9月9日	サッカー in 刈谷		O-60、O-70(京大OBと合同)各2試合	O-70 8人
31	9月17日	親善	検見川	千葉大OB、ACちば	21人
32	9月21日	SFLリーグ(O-70)	駒沢第2球技場	AKB70、四十雀東京70	12人
33	9月23日	親善	農学部	東大ダックス	10人
34	10月6日	7大学前哨戦	検見川	京大、阪大、九大OB	14人
35	10月13日	関西LB試合	Jグリーン堺	男組	9人
36	10月14日	親善	稲毛海岸グラウンド	千葉大OB、ACちば	11人
37	10月19日	SFLリーグ(O-70)	駒沢第2球技場	WKU、AKB70	13人
38	10月20日	ホームカミングデイ	御殿下	藤枝FC、東大スポ愛OB	37人
39	10月28日	親善	農学部	埼玉選抜、広島選抜、東京シニア	18人
40	10月30日	神奈川交流会(O-70)	馬入ふれあい公園	湘南ペガサス、神奈川IE、神奈川IW	13人
41	11月3日	3大学OB戦	相娯園	早慶OB	43人
42	11月10日	親善	検見川	墨東60、名大・九大連合	9人
43	11月17日	定期戦	藤枝総合公園	藤枝FC	31人
44	11月25日	親善	農学部	埼玉O-60選抜	16人
45	12月4日	神奈川交流会(O-70)	馬入ふれあい公園	湘南ペガサス、神奈川IE、神奈川IW	12人
46	12月15日	親善	大井第2競技場	東京シニアクラブ	15人
47	12月21日	SFLリーグ(O-70)	駒沢第2球技場	WKU、四十雀東京70	18人
48	12月23日	親善	三菱養和巣鴨	東京男組	22人

なお、70歳以上のSFLリーグは以下の様に行われています。

(ア) 参加チームは4チーム

東大LB70、四十雀東京70、WKU(早慶連合)、AKB70(赤羽・駒沢・馬入の練習会のメンバー)

(イ) 試合は原則として毎月第3金曜日の午後に行われる

(ウ) リーグ戦は4回総当たりで試合日は6回(9月、10月、12月、1月、2月、3月)

(エ) 1回に15分ハーフの試合を2試合行う

(オ) 2013年は5チームとなり4月からの1年間で10回の試合日(7月と8月は無し)、
各回2試合ずつを行い、5回総当たりのリーグとなる

(本項文責：樋口周嘉)

③ 御殿下シニアフットボールクラブの活動状況

【『御殿下シニアフットボールクラブ（GSFC）』1年目の活動を振り返って】

--LB60 活動の一環として、2012年1月にチーム設立。都協会シニアチームに有志32名で活動。--



(6/23 対四十雀 SC 東京 65 との対戦の写真。)
後列左から 笠原、小野田、清木、藪内、八林、小柳、小西、岡田、
武田、黒澤
前列左から香山、田名、俵、坂井、上妻、戸井 の各選手。
(於大井第二球技場 この試合は 5 対 0 で勝利。)



(9/29 北区シルバーサッカー大会優勝の集合写真)
後列左から 黒澤、堀井、戸井、岡田、宮武、南谷、松下、田
中靖、山辺
前列左から 上妻 櫻井 坂井 八田
(於 赤羽スポーツの森 大会 2 勝 1 分で優勝)

I. 設立経緯

有志のアイデアが、2011年8月LB理事会の皆様のご理解/承認を得て、メンバー募集・登録・ユニフォーム等を半年をかけ準備等して30名超（現在32名）のチームが2012年1月に誕生。代表は最年長39年八田さん、監督に48年上妻さん、そして運営を47年戸井が担当。

従来、年間メンバー協会事前登録必要の大会には原則参加せず、和を重んじ運営されてきたLB60だったが、①団塊の世代が還暦に到達し、②サッカーが社会で劇的に普及し、時間的余裕を得た元気な高齢のチームが急増、③親睦も踏まえつつ、現役時代のような勝負にも真剣に立ち向かい、又試合数ももっと増やしたいとのシニア層の増加で 設立の機が熟したので、有志を募り 年間事前一括選手登録し、都シニアリーグ戦等に参加することになった。従来の淡青の上着/靴下に加え、アウェイ用にLBマークのある真白の上着/靴下の副ユニフォームも新調した。背番号も従来のLBの背番号を踏襲した。和と勝負のバランスを取りながらの1年目の活動は 監督とそのメンバーの尽力に負うところ大であった。

II. 初年度参加メンバー

S39/八田、熊沢、 S41/香山、S42//坂井、S43/小西、S44//藪内、鍋島、北川、松岡、八林 S45/
武田、佐藤、八林、S46//小柳、清木、櫻井、S47/赤松、手島、宮路、黒澤、俵、戸井 S48/上妻、
S49/岡田、笠原、田名、内田、乾、S50//山辺、天野、 S51/南谷、堀井の32名が参加。尚、今年度
末現在の年齢で言って 最若手60歳、最長老73歳、平均64.5歳であった。

Ⅲ.試合の戦績

練習試合 1 試合も含め、年間通して 15 試合で 5 勝 5 敗 5 分 総得点 23 点、総失点 12 点となった。

●**春期大会** 1 敗 1 分 総得点 1 総失点 2 (14 チーム参加 予選落 優勝 FC マジョール)
(予選リーグ 2/19 参加 18 名 対 FC マジョール 1:1 Δ 得点田名 1 /駒沢第二、2/26 参加 19 名 対 渋谷 0:1 ● 東大農 G)

●**クラウンリーグ** 3 勝 3 敗 3 分 総得点 17 総失点 6 (15 チーム参加 11 位)
(Bリーグ 8 チーム 7 戦 2 勝 3 敗 2 分 4/14 参加 10 名 対 KWU 1:1 Δ 得点田名 1 /駒沢第二、5/15 参加 16 名 対 YKT 5:1 ○ /得点俵 1 補南谷、戸井 2 補俵・堀井、黒澤 1、上妻 1 補田名 /赤羽森、6/9 参加 18 名 対江東五区 0:1 ● 葛飾 SC、6/23 参加 17 名 対四十雀 65 5:0 ○ 得点田名 1 補戸井、俵 1 補戸井、戸井 1、櫻井 1 補戸井 /大井第二 7/8 参加 19 名 対マジョール 0:0 Δ /駒沢第二、7/29 参加 15 名 対 Lazos 0:1 ● /赤羽森、8/4 参加 16 名 対渋谷 0:1 ● /駒沢第二)
(AB 順位戦 2 戦 1 勝 1 分 9/15 参加 15 名 青山 1:1 Δ 得点戸井 1 補藪内 /赤羽森、9/22 参加 12 名 新宿 5:0 ○ 得点 櫻井 3 補小柳・小柳、田名 1、山辺 1 /葛飾 SC)

最終順位は次の通り。

①Lazos、②四十雀東京 60、③東京シニア、④渋谷 1950、⑤B+、⑥墨東 60、⑦FC マジョール、⑧WKU、⑨青山、⑩江東五区四十雀 60 ⑪御殿下 SFC、⑫新宿マエストロ、⑬YKT、⑭国分寺セレッソ、⑮四十雀東京 65

●**北区大会** (9/29 赤羽) 2 勝 1 分 優勝 総得点 2 点 総失点 0 点
(9/29 参加 12 名 対埼玉選抜 1:0 ○ 得点戸井 1 補宮武、参加 14 名 対東京シニア 1:0 ○ 得点植村 1、参加 13 名 対赤羽水曜練習会 0:0 Δ)
(参加 6 チーム 優勝 GSFC 同率優勝 赤羽水曜会 その他 埼玉選抜、東京シニア、四十雀東京 60、ねんりん東京 60)

●**その他練習試合:** 1 敗 4/8 参加 10 名 対東京シニア 3:4 ● 得点上妻 1、俵 1 補上妻、戸井 1 東大農 G

Ⅳ.シーズンを終えての感想(色々な声)

- 大満足の戦績とは行かなかったもののクラウンリーグに参加して、色々なメリットの声を聞いた。
 - ・60 代になり現役のような勝負にこだわるサッカーができて、体力も戻り、やりがいや充実感やチームメイトとの一体感を感じた。
 - ・LB 以外の色々な方々と対戦後の懇親会で、交流の輪が広がった。元日本代表クラスの方等との交流もあった。
 - ・戦力的に 北区招待のサッカー大会では名門、埼玉や、強豪東京シニアを倒しての優勝は今後の希望もてるものだった。
- 設立にあたって心配された諸点は、各位のご努力により、大きな障害とはならなかった。
 - ・メンバーが集らないのでは、の心配。
 - ⇒32 名登録。現実には最低で 9 名でスタート等厳しい日もあったものの 13 名から 18 名は毎試合参加してくれた。但し、遠地居住の方や体力に自信の無い方にも加入頂き、実参加がむづかしかったことは大変残念でした。
 - ⇒ ネットで事前に出場可能者名が確認できるシステム導入で、出欠の判断に役だった。(既にメンバー大幅に超えている場合は、無理して出席しないし、逆に選手がたらなそうであれば頑張って出場意思表示をする等。)
 - ・LB60 の中で和が崩れるのでは
 - ⇒試合場に来られた方は 50 分ゲームで全員最低 10 分は出場していただいた。又、LB60 としての練習試合が池森世話役の尽力で、大幅に増加し、GSFC に登録していなくても LB メンバーにサッカーチャンスは豊富であった。
 - ・既存所属チームとの 2 重登録問題
 - ⇒何名かの方が、移籍や、サブ登録等で、GSFC の活動に寄与してくれた。

V.今後の課題

- チーム力 パスワークを磨き、強い相手にも得点できるパターンと体力を養成。守備も失点ゼロの美しいサッカーをめざす。
- 生涯プレー 元気に体力に応じて、LB50、LB60、GSFC、LB70 チーム間 各自にあった形でのサッカー継続。
(2013年には新たに S50/山中、S51/田中靖、宮武、池森各氏から加入の意向を既に聞いています。)
- チーム名 現在の登録チーム名は御殿下シニアフットボールクラブであるが、LBとの関連明記の是非を要確認。(例えば、東大LB御殿下シニアFCとか LB御殿下シニアFCと付けることの可否を検討。)

VI.チーム 2013 年のスケジュール

- 対協会 選手登録表提出と登録費支払 2013年1月25日
- 協会主催開幕式 2013年2月3日
- JFA登録作業 2013年2月開始
- 春期大会 2013年2月以降
- リーグ戦 春以降 詳細は別途。



優勝賞状を酒の肴に、試合後の懇親会でご満悦の上妻監督と戸井

VII.2013 年度 御殿下シニア FC 申込

- 1月25日に年度当初登録を終えたところですが、年度途中でも夏位までは纏めて追加登録が出来ることになっていきますので、参加希望者をご連絡下さい。
- 申込にあたっては 年会費 15,000 円を 次の口座へお振込下さい。
 - 郵貯銀行 振替(当座)預金口座 店名 〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)
 - 口座記号 00110-5- 口座番号 393887(右詰め)
 - 加入者名 東大LB 御殿下シニアフットボールクラブ
- 振込金額 15,000 円
(昨年の会費は20,000円で、クラブの基本財源ができたので、今回値下げしました。)
- 今年、新規に加盟の方は協会への登録や連絡の為、次の情報もメール等で 運営担当までご連絡下さい。
 - ①名前②ふりがな③自宅郵便番号と住所④自宅電話⑤自宅ファックス⑦自宅PCメールアドレス⑧携帯電話番号⑨携帯メールアドレス⑩勤務先(もしあれば)⑪勤務先電話番号と勤務先メールアドレス(もしあれば) を 記入の上、
 - 運営事務局 47年戸井まで申込下さい。
〒156-0055 世田谷区船橋 5-7-1 03-5374-0560 toittoi@mx5.ttcn.ne.jp

VIII.その他

公式戦含め多くの試合を今シーズンも共に戦った GSFC 発起人の一人でもある八林秀一さんが病に倒れ 11月5日にご逝去されました。
言葉に表せない悲しみで、心よりご冥福をお祈りするばかりです。 合掌

(本項文責：戸井正明)

3. 現役からの情報発信

現役は関東昇格を果たすため、今年は「結果を出すこと」、「勝つこと」を強く意識して、日々鍛錬を続けております。

さらに、継続的な力をつけるために、単に強くなるだけでなく、愛されるチームを理想として、学生主体のクラブ運営に向け様々な取組を進めております。現在の活動の目的と全体像をご紹介させて頂きたいと思っております。

① ア式蹴球部が掲げる理想とクラブ運営を行う上での目標

現役が考えるア式蹴球部の理想：強く、愛されるチームとなる

ア式蹴球部は、サッカーをやる以上、大前提である「勝つこと」を強く意識し、関東リーグ昇格を目指し、日々練習を重ねております。本年度、念願の関東昇格を果たし、「強い」チームを作り上げることが最大の目標です。

ただ、最高学府であり、また、長い歴史を誇るア式蹴球部として、ただ単に「強い」チームになるだけでは不十分であると考えており、サッカーに真摯に向き合う姿勢や文武両道を貫くことで、強いだけでなく、多くの人に「愛される」チームを目指しています。

そこで現役では、3つの目標を定め、クラブ運営及び様々な活動を行っております。

目標①：サポーターを増やす：応援していただく

良い結果を残すには、ピッチで戦っている選手が試合で最高のパフォーマンスを発揮する必要があります。周りの人がそのために出来ることはまず応援です。

そこで、部員一同応援の本質に今一度立ち返り、「応援とは、ピッチの外からピッチの中を盛り上げ、ピッチに立つ選手を鼓舞していくこと」だと考えました。ピッチの中を盛り上げ、鼓舞する力を持つ応援は、自然にピッチの外に立つア式外のサポーターの心も惹きつけるはずで、多くの応援してくれる人、つまり真剣に自分たちの勝利を望んでいる人が多くいればいるだけ選手はより強く試合に勝ちたいと思ひ、また応援から力を得られます。今は、ベンチ外の選手とLBからの応援が中心ですが、できれば地域の人々など数多くの外部の方にも応援してもらいたいと考えています。そして、将来的にはア式の試合が外部からの観客で埋め尽くされ、応援してくれた人の中からスポンサーやサプライヤーが出てくれることを期待しております。

目標②：部員を増やす：有望な高校生を獲得し、選手のレベルを上げる

関東リーグを目指しているア式にとって、有望な人材の継続的な獲得は必須です。そこで、東大に入学した学生だけでなく、高校生などにもア式の魅力を伝えることで、「ア式に入りたから東大を目指す」学生を増やしていきたいと考えております。

ア式を中高生に「身近で親しみが持てる」存在だと感じてもらうことで、勉強に自信のない学生のモチベーションの向上や、サッカー強豪校の優秀な部員が東大を目指す一つのきっかけに繋がることを期待しております。

また将来的には、ア式の魅力を通じて、大学サッカーの魅力を伝えていきたいと考えております。継続したア式の活動が、「高校サッカーが学生サッカーの中心」という世論を覆し、大学サッカーが高校サッカー、プロサッカーにも劣らず、すばらしい舞台であることを広く社会に伝えていければと夢見ております。

目標③：活動資金を獲得する：充実した練習環境を維持する

大学サッカーは高校までのように環境が与えられるのではなく、自分たちで環境を作っていかなければなりません。また、関東リーグに昇格すれば、登録費や遠征費で最低200万程度費用が増加することとなります。さらに、部員増加に伴う施設の充実、審判講習会費なども考えれば、負担の増大は確実です。学生の個人負担だけでは限界があり、金銭的に部活動が続けられない部員も出てきてしまっております。他方で、受動的に皆様からの支援を仰ぐだけでは、周囲の人々への甘えになってしまいます。そこで、私たちは、LBや地域の方々と深くつながることで、「支援したい、応援したい」と思ってもらえるチームになりたいと思っております。

そのため、LB、地域の人々、保護者、中高生など様々な方々を対象に、後述のサポーターとつながるための取組を始めました。将来的には、つながりを深めていくことで、現役からも発信する双方向の交流のもと、幅広いサポーターの方から支援を受けるチームを目指しております。

② 活動の内容

3つの目標の実現に向け、現在は様々な活動を行っています。以下では各プロジェクトにつき説明させていただきます。

◆イヤーズブックの作成

イヤーズブックは一冊でア式の活動を簡単に知ることができるア式の広報誌です。LBの方々、東大の新生から東大受験を考える高校生とその保護者などに配布しております。今では成澤文京区長（暁星高校出身）のお目にかかるほどの冊子となっており、将来的には、文京区民にも配布できれば考えています。

第一回製作時(2009)では、単純にリクルーティングを目的とした冊子でしたが、今年発行予定のイヤーズブック 2013 は、ア式の存在・活動を広くアピールしていくものとしていく予定です。これまで製作費は大口の協賛企業に収入を頼っていたものから、皆さまLB会員の個人の協賛へと窓口を増やし、さらには広く一般にもア式に支援していただける個人・団体へと輪を広げていきたいと考えております。協賛金は目標実現のための活動資金にあてております

◆文京区との連携（地域密着クラブ化への歩み）

昨年より、成澤文京区長のご高配もあり、正式に文京区と東大ア式蹴球部の提携事業が始まりました。8月と12月には、伝統ある文京区の区民サッカー大会「カイザースラウテルン市長杯・中学生大会」の審判・会場準備・本部運営協力をさせて頂き、大会中にはミニゲーム大会を開催し、地域中学生と交流しました。また大会後にはイヤーズブックを贈呈し、夏に秋季リーグの案内をしたところ、2チームの選手が2、3度応援に駆けつけてくれました。

1・2月にも、小学生を対象とした同様の大会があり、同様に協力をさせて頂くことが決まっています。夏・冬にわたる協力によって、文京区のスポーツ振興課ならびに各チーム責任者方との信頼関係も構築できております。

こうした活動を通じ、地域の皆様に部の存在・活動を知ってもらうことで、「地域に応援されるクラブづくり」に向けた第一歩とするとともに、部員が地域の人々から見られているという感覚を持つことで、ピッチだけでなく日頃から高い意識を持ち行動するきっかけとなればと考えております。

◆平日夜の農学部グラウンドでのサッカースクールのお手伝いならびに御殿下少年サッカースクールのお手伝い

2012年半ばより、農学部グラウンドで平日夜に開催しているサッカースクールと、毎週日曜日に開催している御殿下少年サッカースクールのお手伝いを行っています。地域に応援されるクラブを目標にしている以上、地域のサッカーを活性化するにはいけません。そこで、地域で活動しているサッカースクールを支援することから始めております。

グラウンドは現役の練習に支障がきたさないように、空いているスペースで行ったり、現役の自主練と共存させたりと、うまく工夫を凝らして進めております。現在はお手伝いという形で、外からのサポートになっていますが、ゆくゆくはどんどん部員が地域コミュニティの中に入り込んで、Face to Faceの付き合いが地域の中でも形成できたらと思っています。

◆高校生サッカー大会（進学校サッカーリーグ）の開催

ここ数年、定期的に東大のグラウンドに高校を招待し、サッカー大会を開催しています。一昨年末には麻布・暁星・筑附・筑駒の4校を招待し、昨年末には、この4校に開成・聖光の2校を加えた計6校で大会を行いました。

東大に多くの卒業生を輩出する「進学校」は、サッカー強豪校が少なく公式戦の経験も乏しくなってしまうため、他の高校に比べて高校でのサッカー技術向上が期待しにくくなっています。そこでア式が公式戦の機会を提供することで、少しでも機会を増やせればと思い、活動を始めました。

また、大会の開催は、我々にとっては長期的なリクルーティング活動という面もあり、「東大ア式蹴球部に入りたいから東大に入ってきた」という部員を増やすことや、潜在的なア式蹴球部員の強化にもつながるという狙いもあります。

◆新入生勧誘活動

部員が100名を超え、運営面でも様々な試みが始まった今季、これまでとの状況の変化を踏まえ、来年、新入生勧誘活動を根本から問い直しました。

現在、ア式における新入生勧誘の目的は大きく三つあります。「①有望な選手の獲得」はもちろんのこと、「②運営において有望な新人スタッフを獲得する」、さらに「③勧誘活動を通して、入部しない新入生たちにもア式蹴球部の存在を知ってもらうこと」です。長期的リクルーティング活動の成果も徐々に実を結びはじめ、サッカーを本当にやりたい選手は自然に入ってくる状態になっています。また、同時に新歓期は、新入生全員だけでなく、既存の部員に対しても、部の理念や活動方針、運営の成り立ちなどを今一度正確に伝え、帰属意識をさらに高めさせるための時期と位置づけました。

今年は新たに新歓冊子の作成を始め、さまざまな取り組みを行っていく予定です。

◆卒部式の開催

2012年の3月に初めて、同年の卒業生の部員とその保護者を山上会館に招待し、会食や記念品贈呈を行う卒部式を開催しました。

現在の大学生は、親の援助を無くして、部活はもちろんのこと、大学生活すら満足に送ることができません。しかし、親への感謝の気持ちを満足に伝える機会は大学のイベントには設けられていません。

そこで、部として子が親に4年間の感謝する場を提供し、親子の絆を深めるとともに、ア式の活動にもより賛同して頂き、子(部員)がサッカーに打ち込める家庭環境を整えてもらうこと、さらに親同士の繋がりを強め、一緒に試合を観戦していただくことを願い卒部式を始めました。

嬉しいことに、2012年の卒部式には卒部生のご両親だけでなく、現役の父兄も希望者何人かが出席しました。引き続き活動を継続していく予定です。

◆OBチームとの合同練習

関東昇格に向けよりレベルの高い選手と練習する機会を確保するため、毎週末、社会人サッカーチーム「慶應BRB」に現役から数名を定期的に練習参加させております。

慶應BRBは慶應義塾大学サッカー部(関東リーグ所属)出身の選手と、東大ア式蹴球部出身の選手が所属するチームであり、今年東京都社会人リーグ2部を優勝し、来年は東京都1部で戦うことが決まっております。関東リーグでスタメンとして活躍していた選手やJリーグからスカウトのあった選手などもおり、現役だけの練習では得ることの出来ない関東のスピード感覚などを養っております。また、逆にBRBの選手にプレーイングコーチとして、現役の練習に参加してもらうこともあります。

また、ア式の若手OBチームであるDiegoも、チーム名を「東大LB」と改称し、伝統あるOBチームとして新たに歩みだす予定です。「東大LB」とも現役との合同練習や交流を進めていくつもりであり、慶應BRBと東大LB、この2つのOBチームには現役への支援を行っていただきつつ、現役とタッグを組んで、お互いにレベルアップするような関係を構築していきます。

◆公式グッズの制作

ア式の良さを知り、応援して下さるようになったサポーターが、よりア式と一体感を得られるように、昨年よりタオルマフラー、レプリカユニフォームといったグッズを製作しております。寄付をしようと思うが、寄付をする口実がありません...。という方へ、対価としてノベルティを提供することで、ア式とサポーターの一体感を高めています。一部の剰余金は、イヤブックスの協賛金と同様に部の活動資金として使われています。

公式グッズの紹介

ア式蹴球部では、東大ア式グッズの製作を開始しました。頂いた寄付に対する感謝の気持ちとして、グッズを贈呈させていただきます。なお、寄付は一口1,000円からになっています。

購入を希望される方はメールまたはFAXにて以下連絡先にお問い合わせください。

メール ashiki@todai-soccer.com

FAX 03-5800-1939

HP <http://www.todai-soccer.com/> にも記載されているので、ご参照ください。

- ・ イヤーズブック2012：1口/1部

イヤーズブックは、ア式蹴球部の年間活動報告書です。昨年の戦績やキーマンインタビュー、プロジェクト紹介など読み応え十分の内容となっております。

- ・ 東大ア式タオルマフラー・・・3口/1本

御殿下を青く染めましょう！

公式戦の時の応援で、グラウンドを弊社カラーであるライトブルーに染めていただくときなどに、お使いください。また、夏場には汗を拭くタオルとしても、冬場には寒さをしのぐマフラーとしてもお使いいただけます。



- ・ 公式戦レプリカユニフォーム・・・10口/1本

お子様に着せるなど使い方は無限大。OBとして集まって試合をする際のユニフォームとしてぜひお使いください。さらに、公式戦の時の応援で選手と一体になるため、スポーツや、スポーツ観戦の時などにも、お使いいただけます。左胸には東大ア式蹴球部のエンブレムが入っています。

サイズはLサイズ、Mサイズ、Sサイズ、ジュニアサイズ110～160cmまで10cm刻みであり、希望の背番号・胸番号をお入れします。

また、ご入金確認後の製作になるため、お手元に届くまでお時間を頂くことをご了承願います。

